



春も間近? 校舎玄関にて

立教池袋高等学校

『隣人のために自ら学ぶ』生き方

校長 鈴木 弘

卒業生諸君、おめでとう！そして、ご子息や学校のために多大なご尽力をいただきました保護者のおみなさま、ご子息のご卒業おめでとごさいます。教職員を代表いたしまして心よりお礼とお祝いを申し上げます。さて、君たちは聖書を通して、自分の人生において果たすべき使命(ミッション)を自覚し、世のため、人のためになる生き方をすることの大切さを学んできました。君たちは一人ひとり、みな異なった良さ(タレント・賜物・天分)を持ってこの世に生を受けました。したがって、誰にでもその個々の良さを発揮して、世のため、人のために貢献できるチャンスがあります。勿論、そのためにはまだまだ学ばなければならぬことが、君たちには沢山あることは確かです。これから先、本校を巣立ち、それぞれの道を歩んでいくことになりませんが、必要な知識や経験を身につけていくことが、いろいろな人々との出会いを大切に、人格や思想を形成していくこと、そして専門分野の枠で縛られることなく、広い視野で社会を眺めることの出来る教養を身に付けて欲しいと思います。そして、常に自分を問い直して、神様から授かった自分の潜在的可能性をさらに追求して下さい。君たちすべての人に、磨けば光る素晴らしい個性や特性が必ずあるのですから、自ら求め学ぶ中でそれを磨き上げ、輝かせて欲しいのです。そして、自分の持っているタレント・賜物・天分を活かし、社会に貢献できるような人生を送って欲しいのです。

さて、私は「人は自己の限界を知ることによって謙遜の心を学ぶことができる。その深い謙遜の心から高い人格が生まれる」と信じています。そういう視点から、人は夢中になれることを見出し、それに対してどれだけ真剣に、そして全力で打ち込めるかということが大切であるかというところが、勉強・仕事・研究などに、真摯にそして全力で立ち向かったとき、はじめて人はみな本物を手にできるし、また例えそれが成就しなくても自己の限界を知り、そこから謙遜の心を学びとることができると信じています。真剣に努力し求める者からは必ず美しい輝きが放たれるのです。最後にになりましたが、旧約聖書の創世記に次のような言葉があります。時に主はアブラムに言われた。「出でよ、お前の国から、お前の親族から、お前の父の家から、わたしの示す方へ。」(創世記12章1節) 本校で学んだ多くのことを武器として、この「主の示す道」に従い、君たちは勇気を持って大海原に漕ぎ出して下さい。そして「地の塩」として働き「世の光」として輝く立教人として、努力が花を咲かせ実を結ぶことを心から念願しています。

2011年度 立教大学被推薦者の英語条項

英語2級 (TOEFL, TOEIC等も含む) 以上で認定	83%
英語2級 (TOEFL, TOEIC等も含む) + a で認定	17%

英語条項

今年度の高3は、朝のホームルームで英単語・熟語のドリルに取り組み、GTECでも過去最高の平均スコアを残すなど、平素からしっかりと基礎力を定着させてきたこともあり、

**+** 今月の聖句

人間の心は自分の道を計画する。主が一步一步を備えてくださる。

(箴言 16章9節)

**自己推薦**

自己推薦については第一次推薦会議で全員が認定されました。満点の百五十点は九名、百点以上は八十九名でたいへん良い結果を得ることができました。

**高校山岳スキー部 試合結果報告**

一月四日から八日まで鹿沢ハイランドスキー場で行われた全国関東高校スキー大会(関東予選会)において、高三田中潤が本大会回転競技で四位入賞、大回回転競技で八位となり、両種目ともにインターハイ出場権を獲得しました。さらに高三田中潤が関東大会出場権を獲得しました。

二月十二日から十六日まで新潟県セントレジャー舞子スノーリゾートで行われた東京都高校スキー大会では、本大会回転競技で高三田中潤が六位入賞しました。

2012年度入試 立教大学 推薦入学者数

学部	学科	専修	推薦枠	決定数	学部	学科	推薦枠	決定数
文	キリスト教		2	0	社会	社会	5	5
		教育	4	4		メディア社会	5	5
	文	英米文学	5	2		現代文化	5	5
		フランス文学	2	0	計	15	15	
		ドイツ文学	2	0	法	法	13	13
		日本文学	4	1	国際ビジネス法	4	4	
		文芸・思想	3	3	政治	4	4	
	史	日本史学	7	1	計	21	21	
		世界史学			経営	経営	8	8
		超域文化学			国際経営	6	6	
経済	計	29	11	計	14	14		
	経済	11	11	観光	観光	6	2	
	経済政策	6	6	交流文化	6	1		
	会計ファイナンス	6	6	計	12	3		
理	計	23	23	コミュニティ福祉	福祉	5	0	
	数	2	3		コミュニティ政策	5	0	
	物理	2	0		スポーツウェルネス	3	1	
	化	2	0	計	13	1		
	生命理	2	0	現代心理	心理	5	4	
	計	8	3	映像身体	6	4		
異文化コミュニケーション	計	4	4	異文化コミュニケーション	異文化コミュニケーション	4	4	
	計	4	4	計	4	4		
	合計	150	103					

- 二〇一一年度受賞者
- サッカー記念賞 田中 潤
  - マカダム記念賞 大村 恭平 山田 健
  - 東京都体育優良賞 中嶋 健人
  - 東京都文化活動優良賞 鈴木 海地
  - 学友会賞 阿部 泰明 北川啓太郎
  - 団体 阿部 一仁 小山 慧悟
  - 吹奏楽部 三井 裕史
  - 数理研究部 鈴木 海地 宮崎 宏輝
  - 佐藤 宏樹
  - ゴルフ部 沼沢 慧太 青木 友翼
  - 榎島 太一 藤波伶於南
  - 卓球部 江畑 俊行 仲谷 一弘
  - 阿部 真基
  - 陸上競技部 林 昂平
  - 個人 山田 圭介(吹奏楽部)
  - 高橋 俊博(科学部)
  - 青木 友翼(ゴルフ部)
  - 田中 潤(山岳スキー部)
  - 黒崎 晃(陸上競技部)
  - 木村 憲太(陸上競技部)
  - 齋藤ニコラス(陸上競技部)
  - 中嶋 健人(陸上競技部)
- ※精勤賞については卒業式当日配布の式文をご覧ください。

中三組主任より

やっぱりの言葉

進学準備のために中学校生活振り返る「あなた、あなたの長所は？」という質問が来た。そんなものはない。「そんなものはないからさ」そんな反応が君たちから返ってきた。学校で、どこかか過ぎていて、何を生活の核にすればよいか、わがままにない。そんな存在価値は何か。聖書では神と他者への愛が人間の存在意義だ。君たちには、一生懸命努力をして自分を高め、そこで得た力を他人や社会のために役立て、人から感謝されるような生活を作り上げて欲しい。感謝されるときは素直に嬉しい。そうしたら素直に自分の存在価値を認められるようになるのでは？「向上心と隣人愛」という耳慣れた言葉は、卒業する君たちにこの言葉を贈りたい。

(二組 重原康秀)

今年こそ

卒業おめでとう。目の前に迫って新しい生活が始まる。三年前の今のことを覚えていますか。きつといまの皆さんと同じように、期待を溢れたいこと、思い、新しく何が始まる時、人は「今度こそ」これからは「今度こそ」期待をたくさんかけます。けれども残念ながら多くの人が、途中であきらめてしまったり、忘れてしまったりして「かたじけなく」の期待で終わってしまっている。大事なのは、自身の期待を裏切らず、そして忘れてはいけないこと。中学でできなかったことは、どんな高校生活になっても、是非自分自身に問いかけてみて下さい。次の春を迎えた時、期待に応え、成長した皆さんに会えることを願っています。

(二組 廣瀬由紀)

明日に向けて

卒業おめでとうございませう。入学時に皆さんにお伝えした大切な事三つを覚えていてほしい。一、あいさつ二、学習習慣三、学生会活動この基本的三原則を継続、発展していきける様になる努力を期待しています。特に一貫して行ってきた教室清掃は同じ共有空間で生活する最も大切な場所として、いつも綺麗に保たれてきた事は、学年として大変良かった事の一つです。今後目に見えない心の教育の根幹をなすべきものとしてしっかりと踏襲していきたくし、と切に願っています。

(三組 西澤宏佳)

高三組主任より

足下を見つめた生活を

諸君とは中学三年次から四年間付き合ひ、学年の雰囲気は私なりに幾つか掴んで活動の枠を超えた人間関係「団結力」である。それが今年度のR.I.F.の学年展示(発表)で発揮された。R.I.F.の雰囲気にも馴染まない側面もあつたが、内容的には高尚と感したが、卒業後もこの団結力は大切に育んで欲しい。ただ、大学に進学する「個人力」が「個人力」がより一層問われる。各自が何を学びたいのか、議論したいのか、行動したいのか等、当然進学の希望を抱いている。その思いが、入学してからと何となく高校生活の間で、連日生活を送るの仲間と生活して欲しい。自分を見つめて、四年後、更に成長した姿にお会いします。

(二組 橋本博)

テーマと味わいのある人生を

中学に入って最初の英語のテストで出鼻をくじかれて以来、これはマズいという、NHKのラジオ講座も毎日聴いていました。なかも清泉水女子大学教授の大杉正明氏の軽妙洒脱な講座からは多くを学びました。氏は下宿時代にアメリカの地図を部屋に貼り、いつかはルート66をドライブで走破する、という夢を描いていたそうです。この夢が英語学習の大きな原動力だったこと、私の経験から、この「惚れ込む」という心理状態は、学習を伴う外国語学習では不可欠な要素です。実現するかどうか、また、実際に将来役立つかどうかは別に、興味あることは夢中に打ち込めるのは、素敵なことだと思います。好きな軌道修正は、大いに結構。好奇心を大切に、歩んで行く。

(二組 安原章)

卒業に向けて

卒業おめでとうございませう。いよいよ高等教育の場に立つ皆さんへ。本場の意味での自分を伸ばす準備は出来ているか。卒業する皆に一つだけ私アアドバイスをするとしたら「バランスの良い人間になれ」ということだと思っっている。自分の権利だけを主張するのではなく、しっかりと周囲を見て、責任を果たす人間になってほしい。簡単なようで、常に実現が出来ず、求め続ける、人ととの究極の目標ではあるけれども。様々な事件や社会の状況が不安を感じさせるこんな時代だからこそ、バランス感覚の確かさ、ということが求められると思う。インテリゲンチな大人にならぬよう。

(三組 高橋整)

中学一年便り

道を究める

先日、この三月に立大を卒業する本校のOBが挨拶に来た。彼は中高大の十年間、立教で野球を続け、神宮球場のマウンドにも上がる活躍をし、この四月からは社会人野球という新たな舞台で野球を続けること。そこで彼の中高六年間の学校生活を振り返ってみた。彼の生活の中心はやはり野球だった。授業を終えれば練習、土日は試合と毎日熱心に取り組んでいた。学業成績の方はどうだったか。野球ばかりで成績はさっぱり。なんてことは全くなく、どの教科も優秀な成績を修めていた。なぜそんなことができたのか。話を聞くと、彼にとっても最も大切なものは野球。だから、野球をすれば、邪魔になるようなものは極力排除したいと常に考えていたとのことだった。

例え、成績不振で面接なんてことができなくなるから無駄だ、という考えだ。彼はそんな近くはないところから電車通学していたが、登校時間はクラスで二、三位を争うほど早かった。朝の静かな教室で勉強は済ませてしまおうという考えが練習から帰る、夜は疲れて強なかでできないと自分な方法を考へて出した彼の勉強方法だった。

さあ一年生諸君、どう感じましたか。好きなことをやるために、できることはやる、ということ。好きなことを究める人ってこういう人なのかなと思えます。みなさんも何か好きなことを始めたら、その道を究めたいと思うでしょう。しかし、そのためにはやむを得ず、やるべきことをきっちりやるべきことが最低条件としてある気がします。併せて意志の強さも。部活を一生懸命やっていると、好きなことばかりやって、嫌なことばかり逃げて、人

(藤本勉)

中学二年便り

『人生の寄り道』

『寄り道』は人生を豊かにしてくれるという意味で、本筋ではないのだが、人生において重要なファクターであると思う。正しくは『寄り道』がその後に、どのようにも活用されたかにより、『寄り道』の価値が決まるのだらう。

中学校生活にも慣れ、学校の校風にも慣れ、様々なところで『慣れ』が生じ、グラグラと時間を使ってしまった人が多いように見受けられる中学一年生。

病気になるからわかる健康の有り難味、一人暮らしをしてわかる親の有り難味。悲しいかな、人間は一回失くしてみないと、気づけないのかもしれない。つまり、無駄な時間という『寄り道』を今後につなげていけるかが、中学最高学年に向けての最大の準備なのではないだろうか。一番いけないのは、自分が無駄な時間を使ったことに気づかず、再び同じことを繰り返すと言う悪行である。最高学年：何とかなるだろうと言う考えや、もうワンチャンスはない。『寄り道』を大いに活かす時がやってきたのだ。最初から最善を尽くさなければならぬ。とは言うものの、中学一年生よりは大人に成長したと感じている。その成長には感心しているし、だからこそ今後への期待も大きい。今一度、二年間を振り返り、良くできたところは継続し、正すべきものを直し、有終の美を飾れることを切に願っている。

(砂井博光)

高校一年便り

自分の足で歩け

早いもので高校一年生ももう終わりです。気がついたら卒業式です。高校三年生の中期未だで考えると高校生活は残り六十%となります。この一年間に皆さんが成長したことは何でしょうか。どれだけ日々の生活を丁寧に送ってきたでしょうか。

ところで、今更かもしれないですが、朝の漢字熟語や英熟語のテストについては、どのように考えていますか。毎朝のことだからと惰性で適当に取り組んでいた人はいませんか。これらのような基礎鍛錬の重要性を理解しながら、やはりそれは辛く余り好ましくないと感じているかもしれません。しかし、一流といわれる人物で基礎練習から逃げ出した人はいないのです。

高校一年生が終わる今だからこそ、自分の生活を見つめてみませんか。そして、次の目標を定めましょう。最も感受性が豊か、柔軟に物事を考えることができただけでなく、どんどん吸収できる最高の年代です。そのための時間として春休みがあります。学年が上がり、また新たな思いで自分の生き方を考えて下さい。いまこそ大いに努力し、これからの長い人生を生かすために必要な力をぜひ身につけてほしいと願っています。自分の力を信じ、何とかしようという気持ちをもっと大切にしてほしいのです。

(内田芳宏)

高校二年便り

高2を終えるにあたって

今年の一年は実り多き一年でした。部活動を始め、体育館新設に伴う場所の問題がありつつも、体育祭、R.I.F.生徒会など多くの面で全校の中心となつて頑張ったと思います。また本年度は外部受験生の活躍が特に目立った年でもありました。

今後は学校を引っ張る役割を後輩達に譲り、自分の足で大学を目指して走っていく時期となります。

学部学科決定に繋がる大きな要素の一つに卒業論文があります。取り組みは2パターンに分かれているようです。一つは良い論文を仕上げようという面接を受ける熱心なグループ。もう一つは、どうせ立教大学には行けるからそこそこのいいやというグループです。テストや授業への取り組みも同様に思えます。現在の段階では推薦に関わる多くの評価はまだ出ていませんし今後の努力で変わります。また第一希望の学部に行けるか否かに関わらず、現在の学びは大学での大切な基礎になります。自分の目標を定めて頑張っているひとはそのまま走り続けて欲しい。行き詰っている人には今の状況だけで自分の可能性を狭めて欲しくないと考えています。高3からと言わずに、今すぐにもやるべきことにしっかりと取り組む、ここで学んで良かったという充実感を得ていってください。

(山口弘泰)